



平成 29 年 5 月 10 日

各 位

会 社 名 マミヤ・オーピー株式会社
代表者名 代表取締役社長 鈴木 聡
(コード:7991、東証第 2 部)
問合せ先 取締役 水谷 富士也
(TEL. 03-6273-7360)

個別業績の前期実績値との差異に関するお知らせ

平成 29 年 3 月期 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日) の個別業績につきまして、前期実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

1. 平成 29 年 3 月期 (通期) の個別業績値と前期実績値との差異 (平成 28 年 4 月 1 日～平成 29 年 3 月 31 日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1 株当たり 当期純利益
前 期 実 績 (A) (平成 28 年 3 月期)	百万円 10,318	百万円 1,179	百万円 1,165	百万円 786	円 銭 84.11
当 期 実 績 (B) (平成 29 年 3 月期)	百万円 8,048	百万円 1,140	百万円 1,149	百万円 870	円 銭 93.76
増 減 額 (B - A)	百万円 △2,270	百万円 △39	百万円 △15	百万円 84	
増 減 率 (%)	△22.0	△3.3	△1.4	10.7	

※平成 28 年 10 月 1 日付で普通株式 10 株につき 1 株の割合で株式併合を行っております。平成 28 年 3 月期の期首に当該株式併合が行われたと仮定して 1 株当たり当期純利益を算定しております。

2. 差異が生じた理由

平成 29 年 3 月期の当社電子機器事業は、遊技事業者数の減少、「検定機と性能の異なる可能性のあるぱちんこ遊技機」が存在することが明らかとなった「遊技くぎ問題」に係る対応及び伊勢・志摩サミット開催に伴う影響等により、遊技機周辺設備の新規設備投資を先送りする動きが見られたこと等により厳しい事業環境が続きました。

このような状況の下で、平成 29 年 3 月期における個別業績につきましては、自社ブランドの新製品である液晶小型券売機「VMT-600 シリーズ」等の売上拡大に積極的に取り組んでまいりましたものの、主力である OEM 製品の販売低迷等による大幅な減収を補うまでには至らず、前期実績と比較して大幅な減収を余儀なくされました。

なお、利益面につきましては、製造原価低減への取組み及び飯能事業所への拠点集約の効果等によるコスト削減に加え、減損損失 (特別損失) が前期に比べ大きく減少したこともあり、営業及び経常損益においては売上高の減少に伴う若干の減益が生じたものの、当期純損益段階では増益となっております。

以 上